GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	低炭素水素等
	対象	アンモニア
b.	分類	低炭素水素等
	対象	合成メタン

2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	アンモニア
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社では、世界初となるアンモニアをセメント焼成用熱エネルギー源として使用する、商業規模での実証試験を実施しています。現在までに、セメントキルンにて石炭の熱量比30％をアンモニアで代替する目途を得ており、仮焼炉については、同じく30％代替を目指して試験を実施中です。今後も引き続き実証試験を継続する中で、将来のアンモニア利用を見据え、アンモニア利用における運転ノウハウを蓄積し、段階的なエネルギー転換を目指してまいります。

b.	合成メタン
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社では、合成メタンを脱炭素エネルギーとして活用する技術の開発に取り組んでおり、合成メタンと性状が近い天然ガスを、商業運転中のセメント焼成用キルンにて石炭の熱量比40％代替させる実証試験に成功しました。まずは、低炭素エネルギーである天然ガスへの早期転換を検討し、セメント製造時のCO_2排出削減を図り、さらに天然ガスから合成メタンへの転換を目指し、カーボンニュートラルの業界トップランナーとなるべく取り組んでまいります。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	アンモニア
削減対象	Scope 1＋2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	40%
削減目標における選択対象の位置づけ	アンモニアのセメント焼成用熱エネルギー源としての使用開始年度を2030年度より前にすることができれば、上記目標のScope1の削減に寄与することが可能です。また当社では、2050年にカーボンニュートラルとする目標も併せて掲げており、使用開始が2030年以降となった場合でも、後者の目標達成には資することができるものと考えております。

b.	合成メタン
削減対象	Scope 1＋2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	40%
削減目標における選択対象の位置づけ	合成メタンのセメント焼成用熱エネルギー源としての使用開始年度を2030年度より前にすることができれば、上記目標のScope1の削減に寄与することが可能です。また当社では、2050年にカーボンニュートラルとする目標も併せて掲げており、使用開始が2030年以降となった場合でも、後者の目標達成には資することができるものと考えております。

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	アンモニア
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

b.	合成メタン
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

（日付）2026年6月30日

ＵＢＥ三菱セメント株式会社（企業名）

フェロー　地球環境対策プロジェクトリーダー　島　裕和（責任者名）